

# 都立大ボラセン

0100

— 都立大から生まれるボランティア活動 —

リニューアル創刊号

## 特集1

東京都立大学  
ボランティアセンターへ  
ようこそ!

## 特集2

2021年度  
ボランティアプログラム  
参加者募集

## 学内登録団体 News

秋・冬の発表に向けた、  
園児へのチャリティーダンス(パフォーマンス指導がスタート!)  
学生が振り付けを考案し、オンラインでレクチャー

園児に大人気の「オンライン人形劇」  
今年度はより多くの子どもたちへ

東日本大震災から11年目。  
昨年度の活動をまとめた『まごは新聞』を発行しました

## I am a volunteer

海外建築ボランティアの経験を生かし、  
地域のまちづくりに参画

海外建築ボランティアサークル Benevole  
東原 実咲さん

## 表紙の人

東京都立大学ボランティアセンター  
ボランティアコーディネーター  
齋藤 元気



# 東京都立大学 ボランティアセンターへ ようこそ！



## センター長あいさつ



**伊藤 史子** センター長  
東京都立大学 副学長  
ボランティアセンター長  
都市環境学部 都市政策科学科 教授

このたび、2021年度よりボランティアセンター長を拝命しました伊藤史子です。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

ボランティアと聞くと、災害の復旧支援やオリンピック・パラリンピックサポーターを思い浮かべる方が多いかと思いますが、これらはやや期間は限られつつしかし密度の高い活動を、その時々々の必要性に応じて集中的に提供するボランティア活動です。ボランティアセンターが提供しているスポーツボランティアプログラムもこれに該当するでしょう。

一方でこのような事例も有ります。遠く離れていますが阿蘇地域ではボランティアが活躍することで野焼きを継承し二次的草原が維持されているそうです（参加している知人から生き生きと報告が）。古くから地域に根差している生活文化の多くは多人数が参加することで成立しているものが少なくありません。担い手が減っていく中で、このような関わりにより地域の文化や自然を守っていくことも大切なボランティア活動です。ボランティアセンターがお手伝いしている地域ボランティアプログラムはこちらに該当するでしょう。

また他にも、継続的に細やかな提供により地域機能がスムーズになるような活動、例えば、通学の見守り、絵本の読み聞かせ、買い物付き添い、観光ボランティア等々、様々な寄り添いをカタチにするボランティア活動もたくさんあります。「ボランティア」とは、「自発的に、多くの場合は無償で、社会貢献サービスを提供する人」です。大事なのは、与えられたり指示された活動を無償でやるのではなく、自発的に人々・地域・社会に貢献できるような意味のある活動を見出し、自ら主体性を持って時々刻々で状況を見極め臨機応変に工夫しながら実現していくことのように思われます。

ボランティアセンターではいくつかのボランティアプログラムを用意し、参加を募集しています。まずはこれらの活動への参加を入り口としていただくことを歓迎します。そしてぜひ、自発性・主体性を意識して徐々に活動を広げていただければと思います。

また、「有志で地域の○○活動に☆☆の形で貢献したい」などの活動企画の持ち込みも歓迎です。経験豊かなボランティアコーディネーターが在室していますのでどンドン相談して意義のある活動を実現させていってください。

何はともあれ、ボランティア活動を大いに楽しんでいただければ幸いです。

ボランティアセンターでは、  
学生の皆さんがボランティア活動を通して社会に参加し、社会のニーズと向き合うなかで、  
一人ひとりの可能性を広げられるようなサポートをおこなっています。

### 1 外からのニーズに応える ～情報提供と相談支援～



専門職のボランティアコーディネーターが、ボランティア相談に応じたり、学内外のボランティア情報・助成金情報などを紹介したりしているほか、メールマガジンや SNS、活動報告などを通して、活動を広く発信しています。

### 2 内からの活動を支える ～学内団体のサポート～



学内団体の活動実態を把握するとともに、「ボランティア保険」の保険料補助などを通して危機管理意識を育むほか、スキルアップや団体の取り組みを発信する機会の提供、備品などの貸与により、活動の充実を図っています。

### 3 新たに活動を創る ～ボランティアプログラムの開発・運営～



東京都立大学独自のボランティア活動として、事前・事後の学習と連動した『スポーツボランティアプログラム』と『地域ボランティアプログラム』を推進することにより、社会のボランティアリーダーとなり得る人材を育成しています。

学生がボランティア活動をサポートする、  
社会と学生をつなぐ

## 学生コーディネーター

学生コーディネーターは、同じ学生の立場から、学生と地域をつなぐ活動を行っています。ボランティア活動を紹介したり、その魅力を伝えたり、ボランティア活動に参加するためのきっかけづくりをしたりするなど、ボランティアコーディネーター（職員）とともに都立大のボランティア活動の機運を高めるサポートをしています。



私たちが目指す「5年後の学生、ボランティアセンター、そして地域の将来像」を描いた  
**東京都立大学ボランティアセンター『ビジョン（2020-2025）』**

ボランティアセンターでは、私たちが目指す「5年後の学生、ボランティアセンター、そして地域の将来像」を描いた“ビジョン”の策定に取り組んできました。都立大生をはじめ、日頃から連携していただいている学外の団体の皆様に Web アンケートを通していただいたご意見やご要望をもとに、センターに関わる学生・教職員が一丸となって策定したものが、『東京都立大学ボランティアセンター ビジョン（2020-2025）』です。さらに、ビジョンの各項目の実現に向けてボランティアセンターが取り組む『行動計画』も策定しました。

Vision  
1

自発性をはじめとするボランティアの価値や意義が、都立大の文化として生まれ、その文化が地域、世代を超えて、日常生活に広く浸透している。

実現に向けた行動計画

- A. 学生一人ひとりの意思や価値観に基づいたボランティア活動を展開する。
- B. ボランティアセンターやボランティアそのもののイメージを都立大ブランドとして育てることにより、認知度を向上させる。
- C. 多様なボランティア情報にアクセスしやすい環境の充実と教職員の特性を活かした相談体制の拡充により、学生の関心や想いを実現へとつなげる。

Vision  
2

学内外を問わず、学生、卒業生、教員、職員、地域住民、関係機関など多様な人がボランティアセンターを通してつながり、ともに考え、一人ひとりが誇りと愛着をもち居場所を感じられる地域になっている。

実現に向けた行動計画

- A. 各キャンパスの周辺地域を拠点に、多様な人が有機的につながる場を生み出し、地域をつくる活動を促進する。
- B. 卒業生ネットワークを構築し、それぞれがもつリソースを互いに共有する。

Vision  
3

ボランティア活動を通じた多様な他者との学び合いにより、学生一人ひとりが、社会への問いや新たな自分への気づきを得て、リーダーシップを発揮し、社会に自ら働きかけている。

実現に向けた行動計画

- A. 体験的なイベントやスキルアップの機会を設定し、ボランティア活動への入り口を広げる。
- B. 事前・中間・事後の学習と活動を連動させたボランティアプログラムの拡充、及び、幅広い関心に応じた新たなプログラムの開発によりボランティアプログラム全体の取り組みを発展させる。
- C. 他団体や他大学の学生との学び合いの場を設けることで、新しい知識や価値観を得て互いに高め合い、新たな活動や取組が生まれる気運を醸成する。
- D. ボランティアコーディネーターや学生コーディネーターがその専門性を活かして、学生一人ひとりがつまみ意欲や行動力を引き出し、自信や希望がもてるような働きかけをする。

Vision  
4

社会の変化を捉えて、与えられたものにとどまらず、既存の枠組みや概念を超えて、学生が自ら生み出す新たな活動や取組が広がっている。

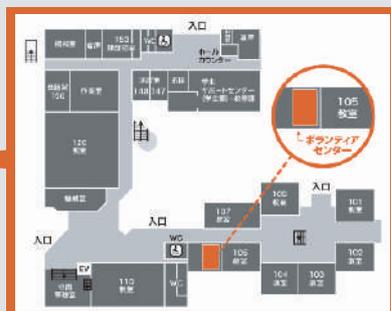
実現に向けた行動計画

- A. ボランティアセンターにおける取組の企画・立案、運営の意思決定に学生の参画を得る。
- B. 社会課題の解決に向けた学外の先進的な取組やそのノウハウを学ぶ機会を提供する。
- C. 学生が自由な発想を持ち込み合えるコミュニティを設け、個々のニーズに応じて教職員や学生コーディネーターが団体の設立や運営をサポートする。

アクセス  
マップ

気軽に  
お立ち寄り  
ください！

南大沢キャンパス 1号館 1階



荒川キャンパス 厚生棟 1階



# 2021年度「ボランティアプログラム」参加者募集

## ～キャンパスから社会へ、そして未来へ～

都立大独自のボランティア活動として、「スポーツボランティアプログラム」と「地域ボランティアプログラム」を実施します。  
都立大でしかできないボランティア活動に参加してみませんか？



### 都立大ボランティアプログラムとは

事前・事後の学習と運動したボランティア活動を年間を通じて継続的に行うことで、社会に貢献することや社会課題に対する学びを深め、社会のボランティアリーダーになることを目指します。

募集期間	5月12日(水)～6月21日(月)
活動期間	1年間(2021年6月～2022年3月) <small>※さらに活動を深めたい場合は、2年目以降も継続することができます</small>

### オンライン説明会を開催！

オンライン説明会では、ボランティアセンターが運営するボランティアプログラムの概要や応募方法などの説明に加え、プログラム参加学生から各プログラムの特徴や活動内容について直接話を聞くことができます。その場で質問にもお答えしますので、ぜひご参加ください。

開催日	5/24(月)、6/4(金)、10(木)
時間	昼休み(12:10～12:45)
会場	オンライン(ZOOMミーティング)

説明会などの詳細は、都立大ポラセンのWebサイトからご確認ください！

### 募集プログラム

#### スポーツボランティアプログラム

##### スポーツボランティアリーダー養成プログラム

###### 活動テーマ(社会課題)

スポーツボランティアの理論を学び、スポーツイベントでの実践を通して、スポーツを通じた地域活性化やインクルーシブな社会の実現、スポーツ文化の醸成を目指す

###### 活動概要(これまでの活動実績)

下記のスポーツイベントにおける運営サポート

1. 一般スポーツ  
「東京マラソン」「伊豆大島 御神火ライド」  
「B.LEAGUE 東京八王子ビートルズ ホームゲーム」
2. 障がい者スポーツ  
「東京都障害者スポーツ大会」の各競技  
※競技例：グラウンドソフトボール、車いすバスケットボールなど
3. 地域交流スポーツ  
「日野市・みんなといっしょの運動会」
4. その他自主企画  
「大学生と一緒に！おうちでスポーツ交流会(オンライン)」  
『気になる！東京2020競技』作成、「愛宕小スポーツ体験会」  
「みやこ祭スポーツフェス」、「日野キャンパス パラスポーツ交流会」

#### 地域ボランティアプログラム 「松木日向緑地プログラム」

##### 「都立大・松木日向緑地」をフィールドとした 里山保全・多世代交流活動

###### 活動テーマ(社会課題)

「都立大・松木日向緑地」をフィールドとして、多世代による里山保全と利活を通して豊かなコミュニティを形成する

###### 活動概要(これまでの活動実績)

1. 竹林の間伐と竹炭づくりなど緑地保全と資源の利活用
2. 小中学校等と連携した自然体験活動、環境学習の企画・運営
3. 高齢者と子どもたち等あらゆる世代の地域住民が集える拠点(サード・プレイス)づくりと場の運営
4. 他自主企画  
「緑地新聞」の作成・発行など

##### プレ企画 大学内でだけのご掘り！

5月中旬から始まる都立大ボランティアプログラムの参加者募集に先駆け、地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」のプレ企画として、4/10(土)、18(日)、24(土)に「竹の間伐体験&たけのご掘り」を実施しました。



## こんな方にオススメ! >>

### 1. ボランティア活動をやってみたくて、一人で始めるのは不安な方

都立大主催のプログラムのため、複数の都立大生と一緒に活動します。原則、全ての活動に職員（ボランティアコーディネーター）が同行しますので、活動に関する悩みや要望がある際は、ボランティアセンター職員にいつでもご相談ください。

### 2. 出会いや視野を広げたい方

学部・学科の枠を越えて、様々な学生とともに活動します。また、連携団体の方々や活動を通じて関わる小学生、高齢者、アスリート、外国籍の方など年齢も立場も多様な人たちと接することで、視野を広げることができます。

### 3. 各プログラムのテーマに関する学びを深めたい方、自分を成長させたい方

事前・中間・事後学習や毎回の活動の際に、教員や連携団体の方々などから専門的なアドバイスを得ることができます。また、学生同士での振り返りを通して、様々な気づきが得られ、学びや成長につながります。

さらに、継続的に活動することで、社会課題について深く理解したり、解決や達成のための方策を自ら企画したり、それを実行することを通して、様々なチカラを高めることができます。

## 参加者の声 >>

### 座波 琉也さん

人文社会学部 人間社会学科 3年



私は以前からボランティアに興味があったので、ボランティアプログラムに参加しました。中学・高校で運動部に入っていたため、スポーツの方に参加を決めました。

このプログラムに参加する前は、スポーツの楽しみ方といえば、プレイヤーとして参加する・観戦する、という二つの行動が主でした。しかし、プログラムの中で様々な経験を重ねるうちに、「支える」楽しさを感じることができ、自分の価値観が一層広がりました。

ボランティアに参加することは、有意義で楽しいものです。ボランティアに参加し得た経験は将来にきっと役立ちます。大学で新しいことを始めたい、様々な経験をしたい、という方は、ぜひボランティアプログラムに参加してみてください。

### 永田 佳奈絵さん

人文社会学部 人間社会学科 社会福祉学教室 4年



私は「なんとなく自然が好き、ボランティアをしてみたい」という思いから活動に参加し始めました。

最初は何の知識も経験もなく不安でしたが、実際に参加してみると、竹を切る作業は意外と簡単で、楽しく気持ちよく活動できています。

このプログラムでは、緑地の中で竹を切る他にも、小学生と竹水鉄砲で遊ぶ企画やボランティア体験会等も実施してきました。学ぶ、作業する、遊ぶ、様々な魅力が詰まっています。

友達と会えない...旅行も遊びも自由にできない...何かずきりすることをしたい!と思っている方、いろんな方におすすめです。皆さんと活動できることを楽しみにしています。

### 藤田 櫻子さん

都市環境学部 地理環境学科 3年



私は、小学生の頃からボランティア活動に取り組み、大学でも続けたい思い本プログラムに参加しました。

一昨年スポーツ大会に参加した際、私がサポートを担当していた選手の方が、大会終了後にわざわざ私のもとに来て「お姉ちゃん賞とったよ!」と報告してくれました。とても嬉しく、短時間で素敵なつながりができるボランティアの素晴らしさを改めて感じました。

本プログラムでは、ボランティア活動のみならず事前・事後学習があるため、「ボランティア」についてしっかりと向き合うことができます。ボランティアに興味がある方、また新しく何かを始めたい方、一緒にボランティア活動に取り組み、充実した大学生を送りませんか。

たくさんのお会いを楽しみにしています。

### 宮崎 仁美さん

システムデザイン学部 インダストリアルアート学科 4年



「せっかく大学生になったのだから、何か新しいことを始めてみたい」「授業だけで視野が狭くなりそう」「竹を切るってどうやるのだろう」といったふわっとした気持ちから、このプログラムに参加しました。

活動し始めて驚いたことは、本当に多くの方々の手によって松木日向緑地の自然が維持されていることでした。学内の緑地を手入れする地域の方々がいる、その方々とともに活動するプログラムの学生がいます。さらに、地域の小学生はそこで自然と触れ合う経験を得ていました。

松木日向緑地が大学と地域を繋げる拠点になっているように感じました。大学内にこんな世界があることを、プログラムに参加していなければ知ることはなかったと思います。

すこしでも興味がありましたら、ぜひ参加してみてください!

## まずは、募集要項をチェック!

## ボランティアセンターに申し込もう!

都立大ボランティアセンターの Web サイトから「申し込み用紙」をダウンロードし、必要事項を記入の上、下記いずれかの方法でご提出ください。

1. ボランティアセンター（南大沢キャンパス 1号館 1階）窓口を持参する
2. E-mail で送信する

[東京都立大学ボランティアセンター]

窓 口：南大沢キャンパス 1号館 1階

※開室時間（10：00～17：00）

メール：tmu-volunteer@jmj.tmu.ac.jp

Web サイト：https://volunteer.tmu.ac.jp/

特設ページ



# 学内登録団体 News



## 光明第八保育園 (八王子市南大沢) × 競技チアリーディングサークル WILDBOARS

秋・冬の発表に向けた、園児へのチアリーディングパフォーマンス指導がスタート！  
学生が振り付けを考案し、オンラインでレクチャー

南大沢キャンパスの近くにある「光明第八保育園」と連携し、秋・冬のお祭りや発表会に向けてチアリーディングパフォーマンスの指導を始めています。保育園の先生の要望を受けてボランティアセンターがコーディネートしたこの取組では、3月から保育園の先生、WILD BOARSの学生、ボランティアコーディネーターで打ち合わせを重ねて準備してきましたが、5月27日(木)から年長児へのオンライン指導を開始しました。

### 競技チアリーディングサークル WILD BOARS

私たちは年二回の大会出場や学祭、地域のイベント出演を目標に、和気あいあいと練習をしています。私たちと高校時代を超えるような大学生活を送りませんか??未経験でも大丈夫なので、ぜひ体験や見学に来てください! イベント情報については SNS をご確認ください!



2021.5.27 (木)  
初回指導日の様子

写真提供  
光明第八保育園

保育園と学生の自宅をオンラインツール(Zoom)でつなぎ、学生がお手本になりながら、チアリーディングパフォーマンスの基礎を指導しています。



## 光明第八保育園 (八王子市南大沢) × 児童文化研究会

園児に大人気の「オンライン人形劇」  
今年度はより多くの子どもたちへ

児童文化研究会は、昨年度から「光明第八保育園」と連携し、コロナ禍で園外の人との関わりや行事の機会が少なくなってしまった園児のために「オンライン人形劇」や「オンライン紙芝居」を実施してきました。

「オンライン人形劇」は初めての挑戦だったということでしたが、月ごとのお誕生会やひな祭りなどの季節の行事のときは、幼児クラスで大人気でした。今年度は、乳児クラスや系列他園からもお声がかかり、活動が広がっていきそうです。

### 児童文化研究会 (じゃりけん)

私たちの活動は、児童館で子どもたちに人形劇を見せることです。年六回の公演に向けて日々練習や準備に取り組んでいます。さらに、児童館で子どもたちに勉強を教えたり、子どもたちと遊んだり、老人ホームに行って、ご年配の方々と一緒に人形劇を行ったり、大学で留学生に人形劇を教えたりといった活動も行なっています。



2021.2.26 (金)  
人形劇の様子

写真提供  
光明第八保育園

1  
幼児クラスで実施した「人形劇(うごく紙芝居)」の様子です。園児たちが物語の中に入り込んでいるように感じるほど集中して見えています。



2  
人形劇披露の後は、学生と園児がリアルタイムで交流し、感想などを聞きました。

YouTube チャンネル  
「じゃりけん」で、  
人形劇、うごく紙芝居を公開中!



## 東日本きずなプロジェクト

東日本大震災から11年目。  
昨年度の活動をまとめた『きずな新聞』を発行しました!



- 1 2020年  
LINKtopos 号
- 2 2020年  
GINGA-NET 号
- 3 2021年  
ボラネット多摩号

▼ダウンロード



ボラネット多摩 アーカイブ公開中  
第7回 大学生ボランティア活動報告会&イベント  
～被災地と多摩地域の架け橋～



被災地支援や地域防災・減災活動に取り組む5大学11団体が制作した動画の配信や東日本大震災の被災者を招いたトークセッションを通して、多くの方々と3.11から10年間の歩みを振り返り、現状の課題や未来について考えました。

### 東日本きずなプロジェクト

「自らが現地で被災地の今や東北の魅力を知り、学ぶこと」「魅力を周囲に発信し、東北に対して興味関心をもってもらうこと」を目標に活動している都立大唯一の震災関連団体です。震災から10年、団体発足から9年という年月を重ねた今新しい活動スタイルを模索中です。私たちと一緒に学び考え、行動してみませんか。

## 海外建築ボランティアの経験を生かして 地域のまちづくりに参画

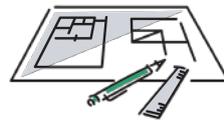


海外建築ボランティアサークル  
Benevole (ベネボール)

東原 実咲 (ひがしはら みさき) さん  
都市環境学部 観光科学科 4年

### 人と人を繋げるボランティア

#### - 多摩ニュータウンで大学生ができること -



私たち Benevole は、長期休暇に東南アジアを中心とした海外の国で建築ボランティアを行うため、2019年10月に設立した学生団体です。

しかし2020年春には、新型コロナウイルス感染拡大したことによって「私たちのフィールドである海外に行くことができない」という団体設立以降、最大の問題に直面しました。そもそも海外での活動に魅力や意義を感じて参加しているメンバーが多い団体です。自分たちにはどうにもできない大きな問題を目の当たりにし、団体としての方向性を見失いそうになる中、まずは「なぜ Benevole は海外建築ボランティアを行うのか」ということを見つめ直すことにしました。

#### なぜ Benevole は 海外建築ボランティアを行うのか

コロナ禍で直接会って話し合うことができない状況でしたが、オンラインミーティングで試行錯誤しながらも話し合いを重ねました。その結果、Benevoleの目標は「家を建てることを通してホームオーナーさんと家が嬉しい喜びを共有すること、そこで感じたことを日本にいる人たちに伝えること」だと再認識しました。そして、海外に行かなくても家やコミュニティをともにすることで幸せを共有し、それを学内外の人に広めることができると気づきました。

#### 多摩ニュータウンの地域活性化

一方で、私たちは国内の家やコミュニティに関わるボランティア活動経験・活動拠点がなかったため、家やコミュニティに関わるボランティア活動を行っている団体との連携できないかと考え、様々な団体にお話を伺いました。

その結果、多摩ニュータウンで地域活性化に取り組む建築スタジオ「スタジオメガネ」さんが当団体に興味をもってくださり、2020年10月に多摩市にある貝取・豊ヶ丘商店街での「ランタンフェスティバル」、永山商店街での「ストリートペイントイベント」のボランティアをさせていただくことになりました。

高齢化が問題視される多摩ニュータウンですが、この活動を通して、多摩ニュータウンに新たな活気が生まれようとしていることや住民の方々の魅力に気づき、多くの人にそのことを広めるために SNS を通してボランティアの参加者募集やイベ



「多摩ニュータウンランタンフェスティバル」にて、  
団地の商店街を装飾している様子

ント誘致を行いました。新たな可能性を見つけた一方で、私たち大学生にできることの限界も感じました。

#### 周囲の反応と活動の今後

活動を通して、都立大生を中心に「初めてニュータウンに遊びに行って、こんな場所があることを知った」、「楽しかった」という声をかけてもらいました。また、ボランティア活動に誘って頂いた団体の方々から、「若い人が活動に参加してくれたことや街の人とコミュニケーションを取ろうとしてくれたことがうれしかった」と感謝の気持ちをいただけたのです。微力ながらも Benevole がやってきたことは無駄ではなかったと気づきました。

感染症の拡大により目に見えない恐怖や人と会うことができずに孤独を抱えている人が多くいるのではないのでしょうか。これからは緊急事態宣言が出され、このような状況が続けば、人とのつながりが希薄になっていくと考えられます。このような状況下だからこそ、多くの人たちにボランティア活動を通して感じた幸せを共有することで、社会全体に少しでも希望を与えることができればと思います。

今後については、コロナ禍でどのような活動をするべきかを話し合ってきましたが、団体設立メンバーの卒業に合わせて団体としての活動を終了するのが良いという結論に至りました。

本来やりたかったことを達成できず悔しい気持ちもありますが、私が卒業した後にこの活動に興味をもって参加してくれる人がきっといるだろうと考えています。

海外建築ボランティアサークル  
Benevole (ベネボール)

認定 NPO 法人 Habitat for Humanity Japan の  
都立大学生支部として、長期休暇中に東南アジア  
の国々で建築ボランティア活動に取り組んできた。  
2020年度は新たに国内でまちづくりに参画。  
2021年度に解散予定。

# 01

3月3日(水)開催 都立大ボラセン YouTube チャンネルにてアーカイブ公開中!

## オンラインで学び、考えよう! 「ごみ問題の解決に向けた新しい取り組み(社会課題 × テクノロジー)」

ボランティア活動をはじめとする様々なアプローチにより解決を目指している「社会課題」を多様な視点から捉えるとともに、その解決に向けた先進的な取組やノウハウを学ぶことを目的として本イベントを開催。  
今回は、本センターの学生コーディネーターがその取組に関心をもち、お声がけさせていただいた小島 不二夫さん(株式会社ピリカ 代表)を講師にお招きし、ごみ問題の解決策として開発・運用されている「ごみ拾いボランティア SNS “ピリカ”」等について、お話を伺いました。定員を超える 32 名の方にご参加いただいて迎えた当日は、参加者からの質問にもご回答いただき、多様な観点から環境問題について学びました。



# 02

3月18日(木)開催 都立大ボラセン YouTube チャンネルにてアーカイブ公開中!

## 2020 年度 大学生ボランティア活動報告会 ～コロナ禍での活動休止、そして再開～



一答のない問題と向き合い続けています

2020 年 4 月に発出された緊急事態宣言に伴う「キャンパス内立ち入り制限」「課外活動の自粛要請」は、夏休みが終わる 9 月頃まで続きました。少しずつ活動が再開してきた中で、2 回目となる緊急事態宣言の発出。  
大学生活は授業だけではありません。これまで必死にボランティア活動・課外活動に取り組んできた学生たちは、このコロナ禍で何に悩み、何を工夫し、どのように活動を続けてきたのでしょうか。  
学生たちのリアルな声をお聴きください。



発表団体(発表順)

スポーツボランティアプログラム / SCOK (スコック) / Benevole (ベネボール) / 地域ボランティアプログラム「松木日向緑地プログラム」 / 都立大ボランティアセンター 学生コーディネーター / 東日本きずなプロジェクト / 体育会 応援団リーダー部 / 競技チアリーディングサークル WILD BOARS

# 03

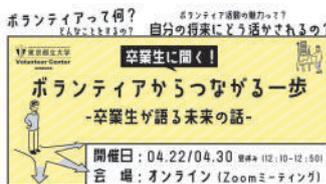
4月22日(木)、30日(金) 都立大ボラセン YouTube チャンネルにてアーカイブ公開中!

## 卒業生に聞く! 「ボランティアからつながる一步 - 卒業生が語る未来の話 -」

学生時代にボランティア活動に取り組んだ卒業生を招いて、同オンラインイベントを開催しました。

各回でゲストそれぞれの経験をもとに、「ボランティア活動を始めたきっかけ」や「今でも印象に残っている学生時代の活動」「ボランティア活動を通して得た気づきや経験が、就職先選びにつながったエピソード」なども語ってくれました。

「学生時代にどんなボランティア活動をして、何を感じ、考えていたのか」「卒業後にどのように活かされているのか」など、これからボランティア活動を始めたい方にも参考になる内容です!



Day1 (4/22) ゲスト

2019 年度 卒業生

神保 彩乃 (じんぼう あやの) さん

都市教養学部 都市教養学科 経営学系 卒業  
現 職: 福祉サービス企業のコンプライアンス業務

学生時代は、東京都障害者スポーツ大会などのボランティアやスポーツを通じた地域交流に取り組む。その他、路上生活者支援や台風で被災した地域での災害ボランティアなど幅広く経験。都立大ボラセンの学生コーディネーターとしても活躍した。

Day2 (4/30) ゲスト

2018 年度 卒業生

水越 智一 (みずこし ともかず) さん

システムデザイン研究科 航空宇宙システム工学域 修了  
システムデザイン学部 航空宇宙システム工学学科 卒業  
現 職: 自動車部品メーカーの設計

学生時代は、東日本大震災の被災地支援(宮城県七ヶ浜町)をはじめ、東京マラソンなどのスポーツボランティア活動に取り組む。また、都立大ボラセンの初代学生コーディネーターとして、都立大ボランティアの機運醸成にも取り組んだ。

表紙の人

齋藤 元気 (さいとう げんき)

東京都立大学ボランティアセンター  
ボランティアコーディネーター

2011 年 3 月 11 日に発生した東北地方太平洋沖地震による被害によって、母校の小学校の体育館での避難所生活を経験。大学進学後には、「被災地の復興・復興支援も重要だが、被災者だからこそ震災の教訓を伝え生かして、新たな被災地を生み出さないように取り組むことが必要だ」という思いから、大学の講義や大学周辺地域において、被災体験の伝承活動を行う。

その後、自分と同じように東日本大震災を経験した東北出身の学生や復興支援ボランティア活動に取り組んでいる学生等とともに学生団体を立ち上げ、「東日本大震災から学び、生かす」を合言葉に、東京都日野市を中心とした地域で被災体験を生かした地域防災・減災活動をスタートさせた。

地域の子どもたちが防災・減災や地域の魅力的な資源、文化・歴史を再発見できるような取組として創り上げた「ひらやま減災ウォークラリー」では、被災地や日野市でボランティア活動に取り組む学生をはじめ、大学のボランティアセンターや地域の小学校、行政、警察署、消防署、社会福祉協議会等、様々な立場の人と協働しながら企画・運営を行い、行政の施策等で取り上げられる。

大学卒業後は、公立小学校の教員として防災教育の開発・実践を経験。現在も伝承活動に取り組む。

2018 年 4 月から現職。